ISSN 0386-8931

二〇〇五年二月五日 印刷
二〇〇五年二月十日 発行

史窓

第 62 号

目 次

論 文

井伊直弼の著述活動と片桐宗猿 …… 母利 美和（1）
——石州流相伝の師系をめぐって——

キャロライン妃の大陸旅行とミラノ委員会 …… 古賀 秀男（45）

フランス革命におけるヴァンデ戦争の史的位置 …… 田中久美子（77）

書 評

京都女子大学東洋史研究室編『東アジア海洋域圏の史的研究』
…… 市丸 智子（103）

彙 報 ……（111）

2005・2

京都女子大学史学会

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』
が活版印刷になり第5・6合併号を発行した
とき（昭和29年）御書きいただいたものです。

彙　報

二〇〇四年度　学会行事

新入生歓迎会

本年度は、前年度まで行われていた新入生オリエンテーションが都合上行われず、新入生との会話を楽しみにしていた史学会委員にとっては残念でした。しかし、入学式の前後に設けられた出欠確認や書類提出などの時間に、新入生のみなさんと顔を合わせることが出来ました。彼女達の表情にこれからの大学生活への期待や不安の色が見て取れたので、私達上回生が新入生をしっかりサポートしなければ、という意識を確認しました。

新入生歓迎バスツアー

四月三日（土）　滋賀・三井寺へ

当日の昼休みに先生方を交えての昼食会を開き、先生方に自己紹介を、また柴田先生から目的地である三井寺の解説をしていただきました。既に友達のグループも幾つか出来ており、仲良く昼食を摂りながら先生のお話に耳を傾け、もうすぐ始まる講義への意欲・期待を抱いたと思われる新入生の姿は、上回生の目から見ても非常に頼もしく感じました。

あいにくの曇り空ではありましたが、「花曇り」という言葉があるように、この季節はあまりすっきりしない天気が多いようです。しかし三井寺の桜は今が盛りと咲き誇り、灰色の空にもくっきりと映えていました。観光客で賑わう寺の境内を、新入生をはじめ先生方や史学会委員も自由に散策し、満開の桜を背景に写真を写したり、寺の高台から見える景色に目を見張ったりと思い思いの時間を過ごしました。

帰りのバスの中では、各々の自己紹介を行ったり、委員から史学会についてや、史学科の行事についての説明を行い、京都女子大学史学科の学生としての意識を確認していただけたようです。先生方には様々なご協力をいただき、ありがとうございました。

春季公開講座

五月二八日（金）　J四二〇教室にて

中世を旅する―公卿の日記から―　本学教授　稲本　紀昭氏

ナポレオンとエジプト遠征　京都大学大学院教授　杉本　淑彦氏

卒業論文中間発表会

日本史専攻　十月十二日（火）～十四日（木）

東洋史専攻　十月十三日（水）～十四日（木）

西洋史専攻　十月十二日（火）～十三日（水）

一回生専攻分け説明会

十一月十九日（金）　J二二四教室にて

この日の昼休みに先生方と昼食を共にしながら、二回生に向けての専攻分け説明会が行われました。専攻ごとに先生方がお話しされ、その後で質疑応答が行われました。一回生の皆さんは真剣な表情で先生方のお話しを聞いていました。短い時間ではありましたが、二回生からの自らの進路を決定するための良い手助けとなったのではないか、と思います。

秋季公開講座

十一月二六日（金）　J四二〇教室にて

十五世紀アジア海域の中国人　本学教授　檀上　寛氏

東アジアの海―中国南朝・百済・倭―　国際日本文化研究センター教授　千田　稔氏

卒業生予餞会

十二月二十日（月）

四回生の卒業論文提出の締切り日であったこの日に、毎年恒例の予餞会が行われました。場所は例年どおり「祇園かがり火」にお世話になりました。四回生の方々には多数参加していただき、恩師である先生方と楽しく和やかな時間を過ごされていたように思います。

卒業論文を無事に提出された先輩方の表情はとても晴れやかでしたが、この約一年の間には苦しく辛い時期もあったことと思います。しかし、それを乗り越えられたという事実は、これからの先輩方の人生にとても大きな意義をもたらしたのではないでしょうか。京都女子大学で得た経験を活かして、それぞれがご活躍されることを祈っています。

早春の学会旅行

三月二七日（日）・二八日（月）

岐阜の高山・白川郷から石川の兼六園という、やや北陸に近い地方の旅を計画しています。毎年行われるこの史学会旅行は、学生と先生方との親睦を深めるためのとても良い機会です。普段大学で見る事の出来ない先生方の姿を拝見する事も出来ますし、回生を超えて触れ合う事が出来るので人気です。今回の旅も先生方に多くご参加いただけたら、とても楽しい旅行になることでしょう。（松原　奈美）

二〇〇四年度　史学科講義題目

史学科共通

講義

史学研究入門A　常松教授

史学研究入門B　柴田教授・谷口助教授

日本史概論A　稲本教授

日本史概論B　瀧浪教授

東洋史概論A　松井教授

東洋史概論B　檀上教授

西洋史概論A　新田教授

西洋史概論B　常松教授

考古学　梶川講師

民俗学　根井講師

日本美術史　山本講師

東洋美術史　竹浪講師

西洋美術史　愛宕助教授

歴史地理学　中村教授

人文地理学　中村教授
自然地理学　相馬講師
地誌学　中村教授

講読

漢文　植松教授・大野・保科・井上講師
ラテン語　竹中助教授

演習

史学基礎演習A　常松・古賀・稲本・植松・柴田教授・母利助教授
史学基礎演習B　松井・瀧浪・檀上・中村・新田教授・谷口助教授

日本史専攻

特講

古代の王権―女帝を通して見た―　瀧浪教授
古代豪族・貴族論　瀧浪教授
中世の女性―〝巫女〟について―　稲本教授
中世の社会―荘園絵図、参詣曼陀荼の世界―　稲本教授
譜代大名井伊直弼の思想形成と政治行動　母利助教授
近代日本の国際社会認識　小林講師
近代日本におけるインターナショナリズムの形成と展開　小林講師
近世武士の日常生活　柴田教授
近世武士の精神生活　柴田教授
庶民の側に立った日本文化史の視点―古代・中世期―　山路講師
庶民の側に立った日本文化史の視点―中世後期・近世―　山路講師

講読

日本史講読Ⅰ　母利助教授・中山・高井講師
日本史講読Ⅱ　瀧浪・稲本教授・吉住講師
日本古文書　稲本教授・母利助教授・中山講師

演習

日本史演習Ⅰ　瀧浪・稲本・柴田教授・母利助教授
日本史演習Ⅱ　瀧浪・稲本・柴田教授・母利助教授

東洋史専攻

特講

中国近世の海運と海商　植松教授
朝鮮古代史を考える　田中講師
古代東北アジア史を考える　田中講師
イスラーム時代西アジア政治史　谷口助教授
イスラーム時代シリアの諸都市　谷口助教授
中国史学史―清代前期史学史―　木田講師
中国史学史―清代後期史学史―　木田講師
出土文字史料による中国古代史の再構築　松井教授
周代史の再構成　松井教授
中華帝国と朝鮮―清末東アジアにおける伝統と近代―　岡本講師
属国と自主のあいだ―清末東アジアにおける伝統と近代―　岡本講師

講読

東洋史講読Ⅰ　檀上教授・藤井講師
東洋史講読Ⅱ　植松教授・岡本講師
東洋史講読Ⅲ　檀上・松井教授

演習

東洋史演習Ⅰ　松井・植松・檀上教授・谷口助教授
東洋史演習Ⅱ　松井・植松・檀上教授・谷口助教授

西洋史専攻

特講

一九二〇年代のアメリカ―禁酒法の時代―　常松教授
一九二〇年代のアメリカ二―不寛容の時代―　常松教授
西洋古代における戦争観と平和観―ヘブライ人、ギリシア人、ローマ人の場合―　新田教授
ローマ帝国とキリスト教　新田教授
ヨーロッパ統合と中・近世ヨーロッパ史の再検討　服部講師
十九世紀フランスにおける教育と社会　上垣講師
十九世紀フランスにおける中等教育と青年期教育　上垣講師
ジャコバイトとイギリス史　古賀教授
近代アイルランドとナショナリズム　古賀教授
バルカン地域の東西文化交流　中村教授
中央アジア、ユーラシア東北部の東西文化交流　中村教授

講読

西洋史講読Ⅰ　古賀・常松教授
西洋史講読Ⅱ　青木講師
西洋史講読Ⅲ　中村講師

演習

西洋史演習Ⅰ　新田・古賀・常松教授
西洋史演習Ⅱ　新田・古賀・常松教授

〔注〕Aは前期、Bは後期、特記していないものは前後期共通。ただし特講（特殊）については、同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載し、科目名とA・Bの記号は省略した。

二〇〇四年度　卒業論文題目

日本史専攻

秋本　美智　藤原氏と菅原道真
姉崎　碧　古代出雲―『記紀』神話の背景―
安藤　智美　八幡神の変遷
伊藤　彩子　伊勢神宮の転機について
井藤　杏子　雅楽寮の衰退について
井上　伸子　古代女性の穢れ
榎木美保子　近江商人―家訓・店則の研究と今日に伝わる「三方よし」―
岡島　純子　近世農民の生活意識と子育て
岡田　昌子　祇園御霊会の成立について

小笠原五十鈴　廃娼運動—娼妓の解放とは—
門倉　礼奈　ジョセフ彦—日米から得た物事の見方—
金子　夕生　学校給食とGHQ
河田　元子　旅の記録から見る金毘羅参詣—江戸時代後期を中心に—
菅　慶子　「高木在中日記」から見た幕末期庶民間の情報ネットワーク
神作　亜衣　甲斐武田氏と寺社
北出麻衣子　律令制度下における三関の研究
金原　寿江　朝鮮における植民地時代の学校—書堂と簡易学校からみる朝鮮総督府の教育支配—
久野　晃子　食の変化から見た現代日本の一考察
久納　麻子　中世の天狗—仏敵から怨霊へ—
小林恵理子　ええじゃないか騒動における支配者層の対応
小森　麻澄　平安時代の美女
榊　悠圭　神仏分離令—薩摩地域を中心に—
佐賀　裕子　菅原道真の墓と安楽寺の成立
佐々木花奈　北条氏照の八王子領支配
佐々木容子　牧の方考察—鎌倉武家女性研究を通じて—
霜山　史江　人びとの妖怪観—妖怪図鑑が生まれたわけ—
菅原　朋子　秋田藩と上方—西廻り海運の発達に関連して—
杉村　知花　雛祭形成考—江戸における雛祭りの成立と展開—
妹尾明日香　春日斎女についての一考察
妹尾　陽子　日本中世社会における老人観
高井　理恵　『若山要助日記』に見る幕末京都における庄屋の仕事と生活
高木　泉　青岸渡寺号について
竹井　千実　結髪の起源と伝播
辻　晃子　生類憐み令について
筒井　裕子　近世京都二条薬種問屋について—京都町触集成を手がかりに—
富山亜紀子　一九五〇年の日本と若者の反戦活動—朝鮮特需の意味—
豊森　晶子　江戸時代における庶民の結婚について
仲澤　葉子　江戸の銭湯—銭湯誕生から湯女風俗終焉まで—
中路久美子　幕末の瓦版—『風俗史料貼込帖』を素材に—
仲田　麻美　太平洋戦争期の天皇思想—民衆の考えを中心に—
中野由紀子　江戸時代の川之江村における支配について
永富絵里子　三昧聖についての一考察
難波江恵梨　県犬養氏と県犬養門について
南部　尚子　室町前期の幕府外交と博多の禅宗—『老松堂日本行録』を中心に—
南保　朋子　平安貴族の食と思想
沼澤　綾　淀殿—北政所との関係—
野一色紗代　西国三十三所巡礼と鳴田遺跡
野崎　晶世　吉備真備と遣唐使
野田　優子　南蛮屏風と宝船図の関係
萩原由利枝　江戸時代の公家と大名の婚姻関係
服部　美輪　源義経と平泉
樋口　真美　河内木綿の歴史—なぜ全国的な地位を得ることができたのか—
平井真理子　草津宿の助郷—その拡大と負担状況—
平山　静香　十市皇女についての一考察
藤井　妙子　江戸期の花火—御触書にみる三都の比較—
南　明子　八坂女紅場と祇園町南側
南　絵里子　近代における旅行の発達—明治三十八年から大正十五年を中心に—
南　里恵　『葉隠』の歴史的意義—戦時期の刊行本を中心に—
山口由希子　熊野詣—参詣記を中心に—
山田　朋子　島津氏の琉球侵攻と日琉関係の変遷
山田　裕美　室町時代の河原者
山本　貴子　京都市の学童集団疎開について
横山麻衣子　公娼制度撤廃のあゆみ
吉賀　牧子　人力車観について
吉村　安奈　古代の八幡宮神職の変遷
渡辺　絵美　近世における大相撲の成立—興行を支える相撲年寄—
渡辺　桂子　藤原不比等と皇室
和田　麻未　大津皇子謀反す

東洋史専攻

井田　美幸　ガンディー、ジンナーの将来構想と政治的位相—インド分離独立のあゆみから—
市川　加奈　漢代の皇太后権力について
今井　深希　川蔵公路—清代以後の利用と開発—
小國　尚子　諸葛亮像の変遷と実像
上出　彩乃　イベリア半島における多宗教混在
木根　瑤美　南宋期における沿海防備と東アジアの海上交通—四明を中心に—
櫛田　良美　古代中国の七夕について
神村　安希　西周後期の周王像の変遷—宣王を中心にして—
児島まどか　宋代の商品流通について
小林加奈子　北宋・熙寧期における「振工」—飢民の雇傭政策—
坂本　智香　フビライと大都の平面計画
清水はるか　麴氏高昌国の官制—吐魯番出土文書の分析—
田浦　惟子　抗日民族統一戦線における中国共産党と救国会派知識人
辻尾香奈恵　唐の国際秩序観—周辺諸民族の序列化—
砥綿　麻衣　李朝前期における奴婢の実像—両班との関係を中心に—
西浦　恭子　十五〜十六世紀における明蒙関係に関する一考察—朝貢体制から馬市体制へ—
沼尾　茜　『天主実義』とイエズス会士マテオ・リッチの中国思想観
野村　知世　明中期の荊襄地区と流民問題

窓

長谷川喜子　康熙帝の測図事業とその意義―『皇輿全覧図』の作成をとおして―

藤本　泰葉　唐代キタイ族の自立への歩み

堀内　裕子　オスマン帝国における毛織物交易―十五世紀後半～十六世紀前半のイスタンブルを中心に―

本田　慈子　魏晋時代の人物評価―王羲之を中心に―

前田　諒子　スキタイの異文化受容

馬渕美由紀　漢代皇帝陵の変遷

山内　彩子　三星堆遺跡からみた古代蜀

山川菜都美　トルファンの登籍ソグド人

山本絵里子　『時務報』における梁啓超の啓蒙思想

西洋史専攻

青木　礼子　クレオパトラの存在意義―エジプト女王の夢見た帝国とは―

阿賀加奈子　夢と現実の輪舞（ロンド）―皇太子ルドルフの実像―

石田　直香　ジェントリの活動―エリザベス期からステュアート期初期における―

今井　彩　南米イエズス会士による「魂の征服」

上野みどり　ギリシアの宗教とその衰退

植村　真弓　「血の輪出」―スイス人傭兵制度の歴史的展開―

大幡　莉沙　プラトンの理想国家と古代ギリシア

岡野　朝香　メアリ・ウルストンクラフトの恋愛経験と女性解放論―『女性の権利の擁護』を中心に―

小沢　美保　フットボールと階級社会

小田澤朋子　「ジャンヌ・ダルクの肖像」の変遷―フランス革命期前後～一九世紀中期を中心に―

加賀美朋子　大英帝国の衰退要因について

北川　明美　カール五世の対オスマン政策

北原　久美　ワンダーフォーゲル―羽ばたくドイツ青年―

久万　幸恵　一八世紀末イギリス海軍の反乱とその性格

組田　陽子　総統の子どもたち―ヒトラー・ユーゲント体制―

桑原　有紀　一六世紀イギリス人文主義と女性教育

佐伯　麻衣　ハンニバル戦争とローマ―カンネの戦いをとおして―

境　美穂　中世ドイツの王権―フリードリヒ一世バルバロッサを見ながら―

佐々木芳美　カエサル暗殺後のローマの内乱―オクタヴィアヌスとアントニウスの対立―

真田　愛弓　バレエの起源と歴史

澤田　委久　古代エジプト人の死生観―自然的要因と再生・復活思想―

柴田佐恵子　メキシコ革命とフェミニズムの流れ

清水由理子　キエフ公国の形成―ギリシャへの道とルーシの洗礼―

高松　明奈　ギリシア人とオリンピア競技会

樽谷佐知子　フランク王国と教会―カールの戴冠―

外崎司佑子　ホロコーストの実態―「戦場のピアニスト」シュピルマンの生涯を通して―

鳥居有紀子　フィレンツェにおけるルネサンスの盛衰―メディチ家を中心に―

中谷　優子　ローマ人の日常生活―ポンペイを中心に―

迫間　茜　労働者の絆―一九世紀関の酒場を舞台に―

橋爪　明菜　黒死病とその影響―イングランドを中心に―

幡司　絵美　スパルタクスの反乱―奴隷たちが目指したもの―

原田　深雪　教皇権と皇帝権の確執―両剣論を中心に―

藤木　美里　宗教改革期のスイス盟約者団

冨士田季子　かけぬけた理想郷―合衆国憲法修正第一八条の実現とその行方―

前田絵梨子　アメリカのフリーメーソン精神

松石　苑子　テンプル騎士団の解体―フィリップ四世による逮捕とその要因―

松尾　玲夏　ポンパドゥール侯爵夫人の宮廷における行動と理念

松本　梨佐　古代ギリシアの女性―その虚像と実像―

宮本加奈子　クレオパトラ―その生涯と人物像―

山口　笑美　革命祭典―その実態と意義―

山本　茜　バビントン陰謀事件

山本　真季　異端王アクエンアテン―アクエンアテンの宗教改革とその影響―

吉本　享子　ポンパドゥール夫人と「同盟関係の逆転」

二〇〇四年度　大学院文学研究科

史学専攻博士前期（修士）課程講義題目

特論

古代都市形成論　瀧浪教授

平安京の研究　瀧浪教授

中世伊勢神宮領の研究　稲本教授

戦国期の社会　稲本教授

幕末期会津藩の政治動向　母利助教授

※近代日本のアジア観とナショナリズム　小林講師

※近代日本の平和論と小国主義　小林講師

『丁卯日記』を読む　高橋講師

近世のパスポート体制　柴田教授

※日本文化史特論　山路講師

日本古文書学特論　下坂講師

中国古代中世史特論　松井教授

元代沿海地域社会の諸問題　檀上教授

明代沿海地域社会の諸問題　檀上教授

中国社会史特論　植松教授

※中華帝国と朝鮮　岡本講師

※中国史学史―清代前期史学史　木田講師

※中国史学史―清代後期史学史　木田講師

前近代アラブ地域のウラマー　谷口助教授

イスラーム文化における口承の尊重　谷口助教授

※バルカンにおける東西文化交流　中村教授
※中央アジア・北東アジアの東西文化交流　中村教授
キリスト教とローマ帝国　新田教授
西洋古代における理想国家・理想的支配者像　新田教授
※ヨーロッパ統合と中・近世ヨーロッパ史の再検討　服部講師
産業革命期イギリスの民衆と政治　古賀教授
アメリカ現代政治史　常松教授
アメリカ大衆社会論　上垣講師
※十九世紀フランスにおける教育と社会（※は学部共通）　常松教授

演習

日本史演習Ⅰ・Ⅱ　瀧浪教授
日本史演習Ⅲ・Ⅳ　稲本教授
日本史演習Ⅴ・Ⅵ　母利助教授
日本史演習Ⅶ・Ⅷ　柴田教授
東洋史演習Ⅰ・Ⅱ　松井教授
東洋史演習Ⅲ・Ⅳ　植松教授
東洋史演習Ⅴ・Ⅵ　檀上教授
東洋史演習Ⅶ・Ⅷ　谷口助教授
西洋史演習Ⅰ・Ⅱ　新田教授
西洋史演習Ⅲ・Ⅳ　古賀教授
西洋史演習Ⅴ・Ⅵ　常松教授

〔注〕特論については、題目が示されている科目は題目を掲げ、示されていない場合は科目名を記した。同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載した。その他は前後期共通。

史学専攻博士後期課程講義題目

特殊研究

日本史特殊研究Ⅰ　瀧浪教授
日本史特殊研究Ⅱ　稲本教授
日本史特殊研究Ⅲ　中山講師
日本史特殊研究Ⅳ　柴田教授
東洋史特殊研究Ⅰ　松井教授
東洋史特殊研究Ⅱ　植松教授
東洋史特殊研究Ⅲ　檀上教授
東洋史特殊研究Ⅳ　谷口助教授
東洋史特殊研究Ⅰ　新田教授
東洋史特殊研究Ⅱ　古賀教授
西洋史特殊研究Ⅲ　常松教授

二〇〇四年度　大学院修士論文題目

末浪　聡子　下田菊太郎論の再検討―『思想と建築』を題材に―
桝村　麻貴　陶磁器業の近代化―信楽陶器同業組合の設立と展開を中心に―
吉川　芙佐　「京都市三大事業」の再検討―上下水道敷設問題をめぐって―
（以上日本史）
紙子沙弥香　第一次ユダヤ戦争と第二次ユダヤ戦争（バル・コホバの反乱）の比較研究
刀谷　文子　ルイ十六世裁判と諸党派・世論
（以上西洋史）

二〇〇四年度　大学院行事

研究発表会・その他

四月　二二日　大学院歓送迎会（悠悠亭にて）
五月　七日　第一回定例研究会
サライェヴォ事件と黒手組　M1　福池　弥生
西洋中世初期社会経済史の一考察、シャンパーニュの大市　M1　西村　明子
明代嘉靖期の鎮守宦官対策と北辺防衛　M1　大川　沙織
劉向『列女伝』から見る漢代の女性　M1　鍋島多映子
近世庶民と暦―古谷道庵日乗記から読み解く―　D1　川崎　理恵
鳥取藩「在方諸事控」にみる子どもの存在状況　M1　棚村　益香
お雇い外国人　ジュール・ブリュネ　M1　加藤麻百合
昭和初期における女給とカフェー　M1　村田　瑞穂
清代長江三峡の航道整備事業と周辺商人層　D1　森永　恭代
七月　九日　第二回定例研究会
ユダヤ戦争と叛乱の指導者たち　M2　紙子沙弥香
信楽焼の近代的発展策について　M2　桝村　麻貴
「京都市三大事業」の再検討―上下水道敷設問題をめぐって―　M2　吉川　芙佐
帝冠様式　M2　末浪　聡子
清末の婦人雑誌の女権　M2　井上　麻美
元代の陶磁器流通　M2　遠藤あかね
十二月二二日　第三回定例研究会
三条実万の思想形成について　D3　佐竹　朋子
『四時月令詔條』小攷　D1　馬場理惠子

修士論文中間発表会

十一月十一日（木）
中国の婦人新聞・雑誌　M2　井上　麻美
輸出陶磁からみる元代の海上貿易　M2　遠藤あかね
ルイ十六世裁判と諸党派・世論　M3　刀谷　文子
第一次ユダヤ戦争と第二次ユダヤ戦争（バル・コホバの反乱）の比較研究　M2　紙子沙弥香

十一月十二日（金）

下田菊太郎と帝冠様式
M2　末浪　聡子

明治後期から大正前期の内地向窯業の一考察―信楽焼を中心として―
M2　桝村　麻貴

「京都市三大事業」の再検討―上下水道敷設問題をめぐって―
M2　吉川　芙佐

研究室だより

昨年は、台風、豪雨、そのうえ大地震と、さながら天変地異を想わす災害が続きました。実家が大きな被害を蒙った学生も二十余人にのぼり、そのなかには史学科の学生も含まれています。心よりお見舞申し上げます。

四回生はほぼ全員が無事卒論を提出し終え、（題目は別掲）あとは最後の関門、試問を待つばかりです。それも本誌が発行される時までには終っているでしょう。

三回生は来年度の卒論ゼミ所属も決まり、最終学年にむけて有終の美を飾るべく、張り切って（？）いることでしょう。

二回生も、来年度から専門科目のみならず教員・学芸員資格取得の単位も増えるでしょうから、取りこぼしのない様、覚悟も新たにしていることと思います。

一回生は昨年末、専攻が決定され、日本史専攻七六名、東洋史専攻三二名、西洋史専攻四十名となりました。

大学院については、本年度後期課程に二人進学し、後期課程在学者は四人となり、前期課程に七人進学、在籍者十七人、双方合わせて大学院生二一人と大世帯になりました。もう現在の研究室では手狭で早急に何らかの対策が必要となっています。

さて、教室のスタッフは、事務員が松井さんに替って、図書館から安井明子さんを迎えました。その他のスタッフに変りはありませんが、坂口先生は目下、ペンシルベニア大学東アジア研究センターの共同研究員として滞米中です。先生からのお便りには、研究生活をエンジョイされている様子がうかがわれ、帰国された折りには、研究成果はもちろん、最新のアメリカ情報から、新しい料理のレシピ、隠れたバーボンの名酒発見と色々お話が聞けるものと楽しみにしています。

一方、残念なお知らせがあります。竹内先生が体調を崩され、十月から休職されました。順調にご恢復と伺っていますが、一刻も早く復帰されることを祈って止みません。

最後に、本年度の先生方の著作活動としては、瀧浪先生が『女性天皇』を集英社から出版されました。『最後の女帝』、『帝王聖武』に続く、奈良時代政治史に新しい視界を開く書として注目されています。是非御一読下さい。また檀上先生は、非常勤講師の木田知生先生と共編著として『中国人物列伝』第三講歴史家と歴史書、第四講日中交流史論（恒生出版）を刊行されました。収められている論稿はいずれも平易に述べられており、東洋史の学生は無論のこと日本史、西洋史専攻の学生に是非読んでいただきたい書物です。

（史学科主任・稲本紀昭）

学会委員

二〇〇四年度の学会運営に協力して下さった学会委員は次の方々でした。例年通り史学会諸行事の企画から運営まで、全般に渡って支えていただきました。篤くお礼申し上げます。

委員長　東洋史三回生　浦田　真美
副委員長　西洋史三回生　高野　千佳
会計　東洋史三回生　田原　靖子
書記　東洋史三回生　松原　奈美
日本史二回生　佐々木瑞穂
日本史二回生　永田かが里
日本史二回生　西川　真由
西洋史二回生　越野　綾
西洋史二回生　林　桃子
一回生　岡　真由子
一回生　北野　里奈
一回生　寺内　裕香
一回生　久門　和子
一回生　村上　沙織

京都女子大学史学会会則

（二〇〇三年三月二〇日制定）

（名称）
第一条　本会は、京都女子大学史学会と称する。
（事務局）
第二条　本会の事務局は、京都女子大学文学部史学研究室に置く。
（目的）
第三条　本会は、史学に関する諸問題を研究し、もって学界に寄与することを目的とする。
（会員）
第四条　本会は、京都女子大学文学部史学科の専任教員および本会が特に認めた者をもって組織する。
（事業）
第五条　本会は、第三条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
1　機関誌『史窓』の発行。
2　講演会、研究発表会。
3　その他必要な事業。
（代表）
第六条　本会に代表を一名置く。代表は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。
（委員会）
第七条　『史窓』の発行のために、『史窓』編集委員会を置く。委員は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。その構成員は以下のとおりとする。
1　編集委員長　一名
2　編集委員　若干名
（総会）
第八条　本会の総会は、一年に一回以上開催し、本会の重要事項を議決する。
（事業費）
第九条　本会の事業費は、京都女子大学学会・機関誌刊行経費、その他をもってこれに当てる。
（会則の改廃）
第十条　この会則の改廃は、総会の議決を経て実施する。
附　則　この会則は、二〇〇三年四月一日より施行する。

『史窓』に関する規約

（二〇〇三年三月二〇日制定）

第一条　京都女子大学史学会（以下「本会」という）は、機関誌として『史窓』（以下「本誌」という）を刊行する。
第二条　本誌への投稿資格者は、本会会員および『史窓』編集委員会が特に認めた者とする。
第三条　原稿は、未発表のものに限る。
第四条　本誌に掲載された作品の著作権は、本会に属する。
第五条　執筆要項などの細則は、別に定める。
第六条　この規約の改廃は、編集委員会の議決を経て、総会の承認を得て実施する。
附　則　この規約は、二〇〇三年四月一日より施行する。

編集後記

二〇〇二年度は、学年暦の関係で例外的に三月二十日に卒業式が挙行されました。最近のこととはいえ、とみに記憶力が衰えている人間がなぜ、この日にちを覚えているかというと、その夜に開かれた卒業パーティで、「ブッシュのバカが戦争を始めてしまった」と松井先生が獅子吼されたからです。たしかに、それはその場に居合わせた全員が共有する感情でした。

あれから二年。アメリカ国民の相当部分と他の諸国民の圧倒的多数（とは、日本の場合には言えないかもしれませんが）の強い願望にもかかわらず、ブッシュが再選を果たしてしまいました。圧倒的ではなかったにせよ、前回と異なり、明白な多数派を確保しての勝利でしたから、アメリカ国民ははっきりとブッシュを選択したことになります。これから四年間、かの御仁がどのような政治を行うのか不安に満ちて見守ることになったのは、われわれの不幸といわざるをえません。

ブッシュ再選の要因は、おいおい、歴史学や政治学が解明してゆくことになるでしょうが、彼がイラク戦争に踏み切った理由は、それらの学問領域と同時に精神分析学の対象にされてもよいと思われます。彼の真意がイラクの民主化などにはなかったことは、ほぼ共通の認識になっていますが、石油その他の利権の確保以外にも目的があったのではないか。

ブッシュの目的は、何よりサダム・フセインの捕獲（殺害）にあったし、それはかのイラクの独裁者に父ブッシュが投影されていたからだというのが筆者の考えです。つまり、少なくとも当人にとっては「偉大」だった父親への劣等感―それゆえ、小ブッシュはアルコール依存症にもなった―が彼を衝き動かしていたのではないでしょうか。この素人診断が正しいとすれば、暗澹たる気分が強まる一方です。父親にできなかった再選を果たしたことで、彼の心が落ち着くことを願うのみです。（常松　洋）

執筆者紹介

母利　美和　本学助教授

古賀　秀男　本学教授

田中久美子　本学大学院研修者

市丸　智子　九州大学大学院
人文学府博士後期課程

（掲載順）

編集委員

常松　洋（委員長）

母利　美和

谷口　淳一

史窓　第62号

二〇〇五年二月五日　印刷
二〇〇五年二月十日　発行

編集　『史窓』編集委員会

発行　京都女子大学史学会
京都市東山区今熊野北日吉町三五
京都女子大学文学部史学研究室内
☎（〇七五）五三一―九一一一
代表者　稲本　紀昭

印刷　株式会社図書印刷同朋舎
京都市下京区中堂寺鍵田町二
☎（〇七五）三六一―九一二一

※掲載内容の著作権は、京都女子大学史学会に帰属します。

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 62 February 2005

Contents

Articles

MORI Yoshikazu, *Ii Naosuke* 井伊直弼 and his Master in the Tea Ceremony, *Katagiri Sōen* 片桐宗猿: A Line of *Sekishū* School 石州流 ·····(1)

KOGA Hideo, Continental Voyage of Princess Caroline and the Milan Commission ·····(45)

TANAKA Kumiko, The War of the Vendée in the French Revolution: Its Historical Meaning ·····(77)

Book Review

Oriental History Section of Kyoto Women's University, ed., *Higashi Ajia Kaiyō Ikiken no Shiteki Kenkyū (A Historical Study on the East Asian Maritime Sphere)* (ICHIMARU Tomoko) ·····(103)

Miscellanea ·····(111)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386·8931